

研究主題

自分の考えをもち、学び合う児童の育成

—授業展開力の追究—



武蔵野市立第一小学校

平成 29 年 11 月 10 日 (金)

教 育 長 挨拶

武蔵野市教育委員会
教育長 宮崎 活志

私たちを取り巻く社会は、グローバル化、人工知能の飛躍的な進化をはじめとした技術革新、生産年齢人口の減少など、予測が困難な時代を迎えています。しかし、新学習指導要領等に示されているように、いかに社会が変わろうとも、自ら考え、主体的に判断し、他者と協働して新たな価値を生み出していくこと、豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」を育てていくことの重要性は変わることはありません。むしろ、その重要性はより高まっています。武蔵野市においても、平成 27 年度からの 5 カ年で「第二期武蔵野市学校教育計画」を実施し、子どもたちの知性、感性を磨き、個性を伸ばす教育を推進しております。各学校では、基礎的・基本的な知識、技能を習得し、思考力、判断力、表現力といったコミュニケーションの基礎となる能力を身に付けさせるため、言語活動の充実を図る授業に取り組んでいただいているところです。

このような中、第一小学校は、平成 28・29 年度武蔵野市教育研究奨励校として、「自分の考えをもち、学び合う児童の育成—授業展開力の追究—」を研究主題に設定し、精力的に研究に取り組んできました。本研究では、児童同士が考えや互いの思いを結び付け、深められるよう、教師が関わっている力に着目し、その方策を追究してきました。このことは、まさに新学習指導要領等で示されている主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善であると考えます。今後、市内各校においても、この 2 年間の研究成果をもとに授業実践を重ねることで、子どもたちが、自ら考え、伝え合う中で学びを深める力の育成を目指していただけることと確信しております。

結びに、本研究の推進にご尽力いただきました新井 保志 校長先生をはじめ、教職員の皆様に感謝を申し上げますとともに、本研究のために、ご指導・ご助言を賜りました元東京学芸大学教職大学院特任教授 大熊 雅士 先生に深く御礼申し上げます。

は じ め に

武蔵野市立第一小学校
校長 新井 保志

本校は、平成 28・29 年度武蔵野市教育研究奨励校として「自分の考えをもち、学び合う児童の育成」をテーマとして研究を積み重ねてきました。平成 28 年度は、副主題を「算数科における授業展開の工夫を通して」として研究を進め、児童の分かり方の特性を生かした指導をしていく大切さが明確になりました。そこで、児童の分かり方の特性を生かし、より児童の考えや思いに寄り添った指導の在り方を「授業展開力」ととらえ、平成 29 年度は副主題を「授業展開力の追究」とし、研究を深めてきました。

新学習指導要領が告示され、学校におけるすべての教科等において、『主体的・対話的で深い学び』の視点からの学習過程の改善が求められています。本校が研究内容として示している、①「主体的な学び」につなげる【課題】、②「対話的な学び」につなげる【可視化】③「深い学び」につなげる【汎用的能力の育成】について、これまで、授業をとおして研究及び検証を重ねてきました。今日の研究発表を通して、一小の考える「授業展開力」について皆様からご意見ご指導をいただき、本校の研究を更に充実させていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

結びになりますが、本研究を進めるにあたり、平成 27 年度から 3 年間に渡ってご指導いただきました元東京学芸大学教職大学院特任教授 大熊 雅士 先生、本校の研究をご支援いただきました武蔵野市教育委員会の皆様に深く感謝し、心より御礼申し上げます。

教育目標

○ 自分も人も大切にする子

◎ 自ら学ぶ子

○ 健康な子

平成29年度 武蔵野市教育委員会 教育方針
基本方針2-確かな学力の向上と個性の伸長-
基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、子どもたち一人一人の学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成するとともに、個性の伸長を図る教育を一層推進する。

児童の実態・社会的要請

- ・課題を解くことには意欲的だが、分からないとすぐにあきらめてしまったり、自分の考えの理由を説明することに抵抗があったりする児童が多い。
- ・新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力育成のために、「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの学習過程の改善」が求められている。

研究主題

自分の考えをもち、学び合う児童の育成

—授業展開力の追究—

目指す

・見通しをもち、自分の考えを話したりかいたりできる子

児童像

・自分の考えを伝え合い、共有し合うことで、よりよい考えを導き出すことができる子

研究の仮説

教師が、日々の授業づくりや検証授業において主に3つの視点をもって授業改善に取り組むことを通して、授業展開力を向上させれば、自分の考えをもち、学び合う児童が育成されるだろう。

研究の内容

—小の授業展開力

児童同士が、考えや思いを結び付け、深められるよう、教師が関わっていく力

授業展開力の3つの視点

①「主体的な学び」につなげる【課題】

- ・課題設定の工夫
- ・課題提示の工夫
- ・既習内容の想起

②「対話的な学び」につなげる【可視化】

- ・具体物の活用
- ・絵、図等を用いた表現の指導
- ・ワークシートの活用
- ・ノート指導
- ・ICTの活用

③「深い学び」につなげる【汎用的能力の育成】

- ・収束期(まとめ)の発問の吟味
- ・活用問題の実施
- ・キーワード、キーフレーズの活用

教師の伝える力

話す力

- ・明確な発問、指示
- ・興味や考え等を引き出す言葉かけ

聞き取る力

- ・学びを深める問い返し
- ・学習内容の分類、整理

受け止める力

- ・意見や考えを受け止める姿勢

+

土台となる日常の取り組み

授業構想・授業改善

Team Teachingの活用

伝え合う力の育成

認め合える児童の育成

学習規律の確立

主体性を生かした特別活動

分かり方の特性を生かした指導

検証授業による授業改善

【自分の考えをもつ】

自分の考えをもって話したりかいたりできる子

低学年



目指す児童
像は、これ！

【学び合う】

自分の考えを出し合ったり、友達の意見を聞いたりできる子

授業
展開力

課題設定の工夫



遠足に行った経験を想起しながら課題を設定する。児童は課題を「自分事化」し、課題を解きたいという意欲が高まる。

① 昨年の遠足のことを思い出し、遠足に行っている時間の求め方を説明できるようにしよう。

※自分事化…児童の生活に身近なものを扱ったり、必要感のある事柄を取り上げたりして、児童が課題や問題をイメージしやすくすること

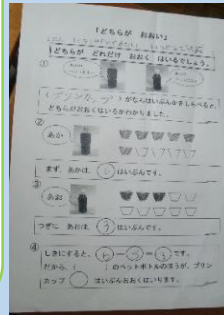
授業
展開力

具体物の活用



目的を明確にし、ペアで具体物を操作しながら活動することで、児童同士が関わり合いながら学習をすすめることができる。

ワークシートの活用



穴埋め方式でワークシートにまとめ、そのシートを活用することで、伝えたいことを友達に示しながら話すことができる。

授業
展開力

発問：午前と午後時刻がまたがる時の時間の求め方は、どのように考えたらよいでしょうか。

収束期(まとめ)の発問の吟味

自分の言葉で学習をまとめられるよう発問することで、次の問題へ汎用できる考え方をもつことができる。

③

「つぎのもんだいをとくときはこうやってしよう」
□くんみんなに、 $9+4=13$ しげいぼしするそれを時けいの時には「時」ともいう。つきもそのやりかたをやれば、「まちがうはすか」ないから、やりたいなと思いました。

教師の伝える力
受け止める力

教師は児童の発言に一喜一憂せず、どのような意見も受け止めることを繰り返すことで、児童は自由な発想を素直に発表できるようになる。

日常の
取り組み

伝え合う力の育成

Team Teaching の活用



聞き歩きタイムで、いろいろな考えを歩き回って聞きながら交流する。

ほくはこう考えました…



担任が全体指導、T2の学習指導員が個別指導を行う。

【自分の考えをもつ】自分の考えをもち、図、式、言葉などを用いて話したりかいたりできる子

中学年



目指す児童像は、これ！

【学び合う】互いの考えを比べて聞き、同じ考えを見付けたり、新しい発見をしたりできる子

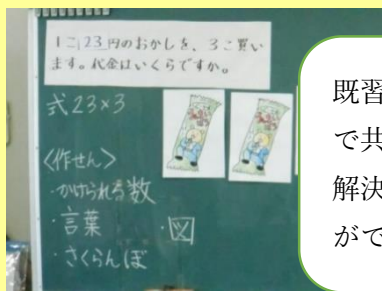
授業展開力

既習内容の想起

1「作戦タイム」

2「既習内容（アイテム）の提示」

①



既習内容を想起し、全体で共有することで、課題解決の見通しをもつことができる。



これを使えば、解決できそうだ！

授業展開力

ICTの活用

具体物の活用

②



ここをみんなに見てほしい！

絵や図が見やすくて分かりやすい。



物を操作しながら説明してくれると分かりやすい。

授業展開力

収束期（まとめ）の発問の吟味

③



それぞれの考え方で、似ているところがありますか？

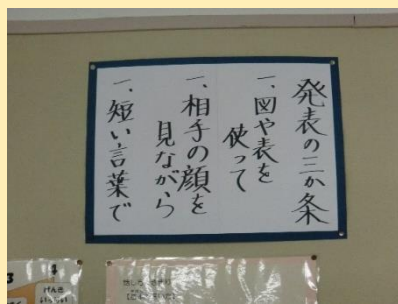
教師の伝える力 **聞き取る力**

互いの考えの共通点や相違点を探させる発問をしながら考えを分類・整理することで、児童が新しい発見をすることができるようになる。

日常の取り組み

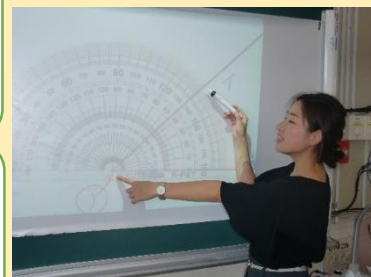
伝え合う力の育成

分かり方の特性を生かした指導



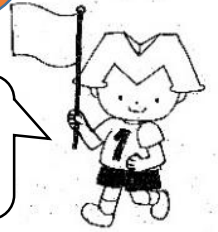
道具の操作の仕方を、ICT機器等を活用して視覚的に示すことで、より確かな技能の定着を図る。

聞き手に伝えることを意識するために、3か条を用いて発表させることで、交流活動を深める。



【自分の考えをもつ】見通しをもち、自分の考えを話したり
かいたりできる子

高学年



目指す児童像
は、これ！

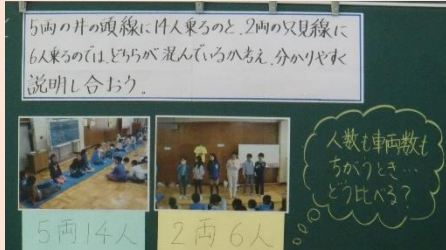
【学び合う】自分の考えを伝え合い、共有し合うことで、
よりよい考えを導き出すことができる子

授業
展開力

課題設定の工夫

調べたい！調べなければ！と思えるよう身近な題材を課題に設定する。

①



教師の伝える力 **話す力**

写真や図などを提示したり、用具を操作したりしながら、明確な発問・指示をすることで、児童が学習に向かう意欲を高めたり興味関心を広げたりできる。

授業
展開力

具体物の活用

ノート指導

②

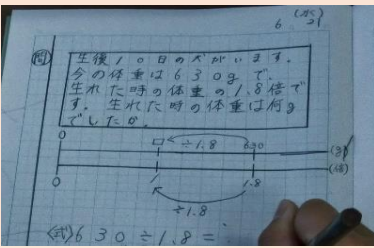


具体物を用いると問題が可視化でき、考えやすい。



自分の考えを、絵や図、表などを用いてノートにまとめるよう、継続的に指導することで、友達と考えを共有しやすくなる。

授業
展開力



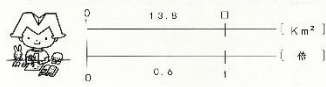
活用問題の実施



③

学習したことを活用して、別の問題に取り組むことを通して、学びを深める。

A町の面積は13.8 km²です。
これは、B町の面積の0.6倍です。
B町の面積は何km²ですか。



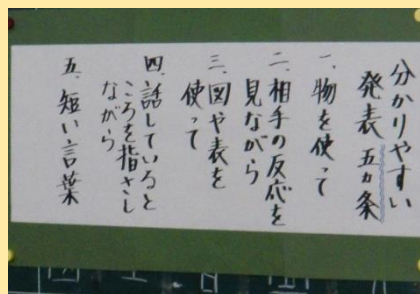
今日学習したことを思い出して解きましょう。

日常の
取り組み

伝え合う力の育成

認め合える児童の育成

なるほどね。



聞き手に分かってもらえるように、5か条を意識して伝える。

友達は分かっているかな？顔を見て確認。

説明を聞くだけでなくその場ですぐにリアクションするとよいことを指導し、双方向で学びを深める。

土台となる日常の取り組み

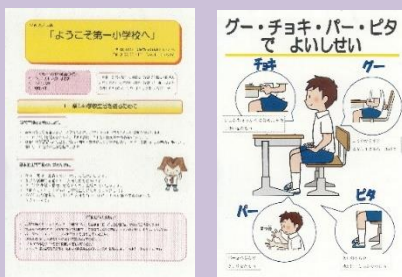


主体性を生かした特別活動



- ・クラブ活動
 - ・委員会活動
 - ・なかよし活動(異学年交流)
 - ・なかよし清掃
 - ・月1~2回昼休みに各委員会の委員長、4年の代表委員、5・6年の計画委員が集まる代表委員会を開催し、一小的めあて決め、「1年生を迎える会」「6年生を送る会」「一小まつり」「ロング集会」等の企画を運営
- 自ら考え、判断し、解決したり行動したりする力の育成*

学習規律の確立



- ・毎年「ようこそ第一小学校」を配布し、家庭と連携
 - ・「ソフト下敷き」を活用し、丁寧に文字を書く指導
 - ・朝読書後の「姿勢すっきりタイム」等 姿勢に関する指導
- 1年から6年まで共通して指導、支援*

授業構想 授業改善



算数資料室の整備

- ・必要な教具を見直す
 - ・見やすく取り出しやすいレイアウト
 - ・収納ケース等を活用して整理整頓
- 効率のよい、授業準備*

検証授業による授業改善



【研究協議会のスタイル】

- ・授業者は、協議会中の内容も含めて授業を振り返り、協議会の最後に自評を述べる
 - ・授業者以外は、教師の言葉がけや児童の反応を中心に授業を振り返り、グループで協議する
 - ・講師と教師一人一人が対話しながら協議会を進行する
- 教師一人一人が主体的に考えを表現しながら協議*

成果と課題

○成果 ●課題

- 自分の考えをもち、その考えを様々な方法で表現しようとする児童が増えてきた。(実態調査より)
- 研究を開始して以来、考えや思いを聞き合ったり話し合ったりする学び合いに対して、肯定的に捉え意欲的に取り組む児童が8割以上と多い状態が保っている。(実態調査より)
- 「規則を見付けることが好き」や「友達の考えから新しいアイデアが生まれる」という汎用的能力の育成につながる児童の反応が出るようになった。(実態調査より)
- 児童が主体的に学ぶことができる課題を追究し、具体物やワークシート、教材の提示方法等、可視化を意識して教材研究を行ったことで、課題を解決したいという児童の思いを高める授業を展開できるようになってきている。(教師向けアンケートより)
- 児童が、より明確で分かりやすく自分の考えを表現できるように、指導を工夫し続ける必要がある。
- 授業の収束期(まとめ)にどのような発問により学習を振り返り、まとめるかということについて、実践研究を続け、その手だてを明らかにしていく必要がある。

おわりに

副校長

そもそもの始まりは平成 27 年度の校内研究でした。「授業展開力」に焦点を絞って研究に取り組むことになり、その年から継続して大熊 雅士 先生にご指導いただいています。27 年度は分科会ごとに様々な教科で研究授業を行いました。全員で同じ教科に取り組むことで『授業展開力』についての理解を深めよう」ということになり、28 年度からは算数ひと筋となりました。

教師の思いどおりの発言が出てくると、ついついそれに飛びついてしまう先生の姿勢は、児童にしっかり考えさせずに学習を誘導していることになりました。しかし、「こうすればよい」というところになかなか行きつかず、四苦八苦の日々でした。しかし、今悩んでいることが新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」に必ずつながると、研究が整理され始めた頃から、いずれぶつかるべき壁に今ぶつかっているという覚悟が定まってきたように思えます。

この研究の区切りに当たり、児童の考えに寄り添いながらも、児童の予想を超えてさらに思考を深めるために、どう授業を組み立てていくかをまとめました。ご指導くださった先生方、ご協力くださった保護者の皆様に改めて御礼申し上げます。発表の日を迎えても、まだ研究は途上であり、課題も山積しています。これからも、研究実践を深めてまいりたいと考えております。

ご指導いただいた先生

元 東京学芸大学教職大学院特任教授

大熊 雅士 先生